

学術研究懇談会(RU11)について

【経緯】

- 「研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による、国立私立の設置形態を超えたコンソーシアム」として、平成21年11月、9大学(北海道大学、東北大学、東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)をメンバーとして発足。
平成22年8月より、筑波大学、東京工業大学を加え、“RU11”として、総長・学長・塾長の下、研究担当理事・副学長が中心となり活動。

【活動状況】

- 日本の学術の発展に向けた政策提言を積極的に実施。

- ・「大学の研究力と学術の未来を憂う(共同声明)」(平成21年11月29日)
- ・「大学の研究基盤の強化と未来を拓く若手研究者の育成のために(共同声明)」(平成21年12月15日)
- ・「国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を(緊急政策提言)」(平成22年3月19日)
- ・「総理大臣への緊急共同提言」(平成22年11月25日)
- ・「科学技術振興調整費における間接経費の取扱いについて(意見)」(平成23年1月7日)
- ・「緊急提言『トムソン・ロイター(Thomson Reuters)社 タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE Times Higher Education)社による大学ランキング評価方法の改訂を求める』」(平成23年7月31日)
- ・「日本再生の基本戦略の策定と日本再生重点化措置の実現に向けた緊急要望」(平成23年11月16日)

